

歴博 ぐらしの植物苑だより

①江戸を咲かす『伝統の朝顔』展

8月8日(火)～



- 第9回 日本の植物文化を語る 8月26日(土) 13:30～ 本館講堂 入場無料
『近世の園芸文化—その仕掛け人と作り手—』 小笠原 亮 (名古屋園芸)
第93回 ぐらしの植物苑観察会 9月23日(土) 13:30～ ぐらしの植物苑
『柿の民俗』 常光 徹 (本館研究部民俗研究系)

苑内で見られる花・果実

畑 トウガラシ ウド アマ ベニバナ カボチャ ゴマ アワ ヒエ キビ
トウモロコシ ワタ ニガウリ

温室 アオハグラ シロハグラ ニボウリ コヒメウリ ナンブテンウリ
モモルヂカメロン ヘビウリ

棚 センナリヒョウタン イボヒョウタン ツリクビヒョウタン オカベマリ
オオヒョウタン ジャンボタイコウ ジャイアンツ コダルマヒョウタン
ヘチマ ハヤトウリ ペポカボチャ ホップ

鉢など センノウ チャワンバス

樹木 ムクゲ ヤマモモ ダビチアノキ クリ オニグルミ トチノキ ベニ
バナエゴノキ ウワミズザクラ ハマナス リョウブ クマノミズキ
ロウバイ オオヤエクチナシ

②オオボウシバナ (ツユクサ科ツユクサ属)

梅雨の時期、青い花をつけるツユクサの変種で、
花が大きく観賞用、染物用に栽培されています。
アオバナとも言われます。朝、花びらだけを摘み、
汁を和紙に染み込ませた青紙をつくります。青色
は水に溶け易いので、友禅の下絵の具として利用
されます。



③ワタ 静岡在来赤木種 (アオイ科ワタ属)
綿と、茶綿、青綿です。交雑しないように、3ヶ所の畑に植えました。綿として利用されるのは、種子を被っている綿毛です。8月中旬には、綿毛が吹き出ている綿の蒴果を見ることができます。



④ムクゲ (アオイ科フヨウ属)
落葉の低木で、花色や大きさに変異があり、園芸品種として多くにものが作られました。この木は韓国の国花になっています。同じ仲間のフヨウも苑内にあります。



⑤チャワンバス (ハス科ハス属)
根茎を食用にする、多年生の水草で、根茎を蓮根といい、花托をハチスといいます。花を仏花として、葉を供え物のお皿としても利用します。写真は植木鉢のような小さな水盤で栽培できる園芸品種で、苑内のマコトバスやオオガハスに比べると、かなり小さい品種です。



⑥ヒシ (ヒシ科ヒシ属)
果実にはトゲがあり、独特の形をしています。葉柄の中部には浮き袋ができ、水面に浮かんでいます。根は泥の中と水中にもあります。果実にはデンプンを多く含み、食用に利用されます。また果実の形には変異が大きい。鳥浜貝塚低地遺跡の、縄文時代の層からは、食用にされたために、割られたヒシが多量に産出しています。



- ① アサガオ
- ② オオボウシバナ
- ③ ワタ
- ④ ムクゲ
- ⑤ チャワンバス
- ⑥ ヒシ

